

第1学年D組 音楽科授業案

公開 I 音楽室
授業者 伊吹 拓実

1 単元 ウクレレでつなぐ日本とハワイ（創作Ⅱ）

2 単元の構想

（1）本単元で目指す子どもの姿

ウクレレに出会った子どもは、『アロハオエ』『夕焼小焼』などを演奏したいと願う。練習をとおして、メジャーの和音コードの響きは明るく、マイナーの和音コードの響きは暗いことに気づく。ハワイアンに親しむ中で改めて日本の音楽を見つめ、その特徴をつかむ。世界のさまざまな音楽に目を向け、より多くの人とのつながりを求めて動き出す

（2）本単元で伸ばしたい力

前単元の「つくろう、リズムブーム」では、ブームワッカーを用いて学園歌の旋律に合うリズムパターンをつくり、グループで演奏表現を工夫した。タブレット端末で記録した演奏動画を活用し、自他の演奏を客観的に振り返ったり、試奏をしながら互いの音を聴き合い、意見を交わしたりする活動をとおして、知覚する力を伸ばした。

本単元では、ハワイの音楽や文化についての理解を深めながら、ウクレレを生かした演奏表現について追究する。和音の響きや音楽様式としてのハワイアンの特徴を感じ取り、そのよさを表現する力を伸ばす。また、音楽を形づくっている要素を手がかりにしてハワイアンの特徴を捉え、比較分析する力を高めていく。

（3）はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

単元の導入で、教師は、ウクレレの生演奏を行う。子どもは、ハワイアンと出会い、ウクレレの音のあたたかさを感じ、自分も演奏したいという願いをもつ。教師は、全ての生徒に自分専用のウクレレを準備する。自分のウクレレを手にした子どもは、楽器に愛着をもち、演奏意欲が高まっていく。自分の演奏を客観的に振り返ることができるよう、タブレット端末で演奏を記録し、活用できるようにする。子どもは、和音コードの押さえ方のこつやその響きを確認しようと、互いの演奏を記録し、聴き合う。子どもは、曲の雰囲気は和音の響きと関係があることに気づく。

子どもは、インターネットや書籍で情報を集めるだけでなく、直接人に会って取材したいと思う。そこで、ハワイの音楽や文化に精通した講師に出会う機会を設定する。ハワイで受け継がれてきた伝統音楽や歴史、文化についての話を聞いたり、講師によるウクレレの生演奏を聴いたりし、個人追究で見えてきた疑問を明らかにしようとする。子どもは、講師と交流して実際に音を聴きながらメジャーコードとマイナーコードの響きの特徴をつかんでいく。言葉だけではうまく伝えられないという子どもの思いには、試奏を取り入れて意見交流をするよう促す。子どもは、具体的な演奏の改善点に気づき、練習に励む。

子どもは、覚えた和音コードを使って演奏がしたいと願う。そこで、ハワイアンの演奏者と交流したりセッションしたりする機会を設定する。本単元をとおして子どもは、その土地の風土や文化、歴史などさまざまな要素が合わさって音楽的な特徴が生まれることに気づく。そして、世界の音楽にふれようと動き出す。

3 単元構想表 (10時間完了)

主なはたらきかけ	<input type="checkbox"/> 思い・考え <input checked="" type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動	音楽科で重視する力
<p>○記録した演奏の活用 自分の演奏の改善点や仲間の演奏のよさなどができるようにするために、タブレット端末で記録した演奏動画を活用する</p>	<p>ブームワッカーで学園歌を演奏し、合奏の楽しさを感じた</p> <p>ブームワッカーはたたき方によって出る音が変わる</p> <hr/> <p>アロハオエが弾けるようになりたい 1時～5時</p> <p>ウクレレの音はとてもやさしくて、気分が落ち着く</p> <p>友達が弾いた和音の響きは他の和音と違って暗い感じがした</p> <p>弦を巻いていくと音がだんだん高くなっていく</p> <p>ハワイアンは明るくてゆったりした気分になる</p> <p>アロハオエで使われている和音の響きはどれも明るい</p> <p>4本の弦の音を正確にチューニングしないと和音にならない</p> <p>アロハオエに使われている和音の響きはどれも明るい。曲の雰囲気は、使われる和音の響きと関係がありそうだ</p> <p>他の曲を練習し始める 6時～8時 (本時7)</p>	<p>☆知覚する力 ・教師の生演奏を聴きウクレレの音の特徴を感じ取る</p>
<p>○音楽経験を掘り起こす 個人追究で見えてきた疑問を明らかにするために、ハワイの文化やウクレレの演奏に精通した講師と交流したり、ウクレレの生演奏を聴いたりする機会を設定する</p>	<p>夕焼小焼は夕日が沈んでいくのをイメージしてゆっくり弾く</p> <p>どちらの曲も速さはゆっくりがよいという点は共通している</p> <p>アロハオエの明るさやのんびりした感じを表現したい</p> <p>友達の意見を参考にして自分の演奏に生かしたい</p> <p>アロハオエと夕焼小焼はほとんど同じコードを使っている</p> <p>のんびりした感じをだすには速さをゆっくりすればいい</p> <p>夕焼小焼はマイナーコードがあることでさみしい感じがする</p> <p>同じコードを使っても曲の雰囲気はずいぶん違う</p> <p>コードチェンジがうまくいけばゆったりした感じがする</p>	<p>☆分析する力 ・音楽を形づくっている要素に着目し、ハワイの音楽と日本の音楽を比較分析しながら、その特徴をまとめる</p>
<p>○試奏を意見交流に取り入れる 演奏を聴き合い、より具体的に表現の意図や助言を伝え合うことができるようにするために試奏を取り入れた意見交流をする</p>	<p>夕焼小焼はマイナーコードがあることで夕焼けの空が表現できる。和音の響きは、曲の雰囲気に大きな影響を与えている</p> <p>ハワイアンの特徴を生かした演奏を工夫する 9時～10時</p>	<p>☆表現する力 ・楽曲がもつよさを表現するために大切な要素に気づき、自身の演奏表現に生かす</p>
<p>○音楽経験を掘り起こす これまでの追究を振り返ることができるよう、仲間や演奏者との交流したりセッションしたりする</p>	<p>上手な友達の弾き方にはコツがあるはずだから聞いてみよう</p> <p>楽譜どおりに演奏しているのにハワイアンらしさが足りない</p> <p>もっとハワイアンのゆったりした感じをだしたい</p> <p>指の移動がスムーズになればもっと自然な流れになるはずだ</p> <p>言葉が通じなくても同じ曲と一緒に演奏することができた</p> <p>ハワイアンのプロのストロークはとてがかっこいい</p> <p>音楽をとおして多くの仲間や他国の人と思いを伝え合ったり共感したりできた。もっと多くの国の音楽にふれてみたい</p>	<p>☆表現する力 ・楽曲がもつよさを表現するために大切な要素に気づき、自身の演奏表現に生かす</p>
	<p>世界のさまざまな音楽を調べ始める</p> <p>日本の音楽には日本の音楽のよさがある</p> <p>世界の音楽についてももっと調べたり、ふれたりしたい</p>	

4 本時の構想 (7/10)

子どもは、ハワイアンスタンダードナンバーである、『アロハオエ』と『夕焼小焼』の練習を続けてきた。C、G7、Fなどの和音コードを覚え、自然な流れでコードチェンジができることを目指してきた。『アロハオエ』の練習では、楽譜どおりの和音コードを押さえてもハワイアンらしさが足りないと感じている。

本時では、『アロハオエ』と『夕焼小焼』の特徴を比べ、その演奏の工夫を考える。子どもは、ペアで演奏を聴き合い、感じたことを伝え合うことでよりよい演奏にするための秘密に迫る。タブレット端末で自分の演奏を記録して振り返ったり、友達と意見を交わしたりし、イメージに合った演奏の工夫をする。

